

[公印省略]

2009年9月2日

関係各位

(財)飯塚研究開発機構
理事長 豊島 令隆

デジタルものづくりセミナー開催について(ご案内)
(「3次元図面」及び「3次元CAD」の先端活用事例・技術動向に見る設計力と現場力の融合)

貴社におかれましては、ますますご清祥のこととお喜び申し上げます。また、当財団の運営に際しましては、日頃よりご尽力を賜り厚く御礼申し上げます。

さて、昨今の製造業を取り巻く環境はかつてないほどの厳しい状況が続いていますが、今こそ「変化への挑戦」の時期と思われます。

そこで、この度、日本でも有数の自動車・電機の産業集積を誇る北部九州の経営者及び3次元設計技術者を対象とした標記セミナーを開催する運びとなりました。

3次元デジタルものづくりは、“設計試作の効率化”から“業界団体が推進する3次元図面を中核とし生産要件を考慮した設計による品質・コストのつくり込みと生産・製造エンジニアリングとの連携を効率的に推進する次なるデジタルものづくりの進化”に移ろうとしています。この3次元デジタルものづくりは、新たなビジネスへの飛躍の鍵です。

ぜひ、この機会に進化するデジタルものづくりツールと、それを有効活用している中小企業の活用事例を聴講いただき、デジタルものづくりの可能性やビジネス革新を体感していただき、技術力を経営力に活かして頂きたいと思っております。

セミナーは以下のとおり2部構成で実施いたします。

午前の部：中小企業デジタルものづくり先端事例 (10:00-12:05)

～「デジタル匠技力」及び「デジタル製造力」によるものづくり経営革新～

午後の部：業界も推進するデジタルものづくり・動向紹介 (13:00-17:15)

～進化するデジタルものづくりがもたらす設計力と現場力の融合～

特別講演 「自動車の産業構造が変わる

～金融危機、環境重視、新興国台頭がもたらす構造変化を考える」

日経BP社 電子・機械局チーフプロデューサー 藤堂安人氏

※セミナー参加者には先着 100 名様に「日経ものづくり」を贈呈します。

日時:2009年10月30日(金)10:00-17:15

場所:福岡県立飯塚研究開発センター 多目的ホール(飯塚市川津 680-41)

主催:(財)飯塚研究開発機構

後援:九州経済産業局、福岡県、北部九州自動車150万台生産拠点推進会議

対象:製造業の経営者・役員、製品開発部門責任者、3次元設計技術者、リーダ全般

定員:120名 参加費:無料

問い合わせ・申込先:

(財)飯塚研究開発機構 研究開発部事業課 相緒(あいお)、村田

Tel:0948-21-1156, Fax:0948-21-2150, Email: murata@cird.or.jp

プログラム(午前の部)

午前の部：中小企業デジタルものづくり先端事例（10:00-12:05）
～「デジタル匠技力」及び「デジタル製造力」によるものづくり経営革新～

10:00-10:05 あいさつ

(財)飯塚研究開発機構

専務理事 栗原 吉輝

10:05-11:05 社長講演 “デジタル匠技力を語る”

**「匠の技とデジタル技術」の融合による「オンリーワン技術」の確立を目指して
～3D・CAD/CAM/RP による車体設備、各種金型、及び精密鑄造品の高効率生産とコスト削減～
(株)今西製作所 代表取締役 今西 寛文氏**

概要:今西製作所は、1921年鑄造用木型製作で創業して以来、型の3次元形状加工技術を基軸に、各種鑄造品、鑄造用金型、試作用プレス・樹脂成形用金型、車体組立用溶接治具・装置の設計製作へと事業を展開してきた。特徴は、長年の型技術、素材技術の蓄積である「匠の技」と最新のコンピュータ支援による「デジタル技術」を融合させ、独自のノウハウを持って各種金型や生産設備を設計製作からトライアルまでスピーディーに一貫生産できることである。今西製作所の3D・CAD/CAM/RPによる車体設備、各種金型、及び精密鑄造品の高効率生産とコスト削減の事例を紹介する。2008年度元気なものづくり中小企業300社受賞。2009年度ものづくり日本大賞中国経済産業局長賞受賞。

11:05-12:05 社長講演 “デジタル製造力を語る”

**「多品種少ロット製造と職人技術との融合で新たなビジネス活路を開拓」
(株)三松 常務取締役 田名部徹朗氏**

概要:三松は、お客様のどんな「わがまま」にもお応えするをモットーに、3次元データを生産プロセス全体に活用し、多品種少ロット製造に職人技術の付加価値を融合した効率的な多品種少量生産を可能にする「小ロット製造代行サービス」を実現。臨機応変かつ幅広い製造ニーズで新たなビジネス活路を開拓し、飛躍的に信頼性向上と日本全国からの受注を獲得し、日本でも屈指の製造代行サービスは、世界の工場に匹敵するほどの製造力を保有する企業に成長。

12:05 ~13:00 * * * * *

昼休み

* * * * *

午後の部 裏面

プログラム(午後の部)

午後の部：業界も推進するデジタルものづくり・動向紹介(13:00-17:15)
～進化するデジタルものづくりがもたらす設計力と現場力の融合～

13:00-14:15 特別講演 「自動車の産業構造が変わる
～金融危機, 環境重視, 新興国台頭がもたらす構造変化を考える」

日経BP社 電子・機械局主任編集委員 チーフプロデューサー 藤堂安人氏

概要：米国のサブプライムショックに端を発した大不況、ハイブリッド車・電気自動車など環境対応車の相次ぐ商品化、新興国市場における低価格車の登場…など自動車産業をとりまく環境は激変の時代を迎えました。これまで日本メーカーが得意としてきたモデルが通用しない状況になってきたのです。例えば、日本で開発したグローバル車種の生産を全世界で一気に立ち上げる「世界同時立ち上げ」の手法は限界を迎え、世界各地で地産地消するモデルが求められています。また、日本がこれまで得意としてきた擦り合わせ型の製品アーキテクチャーもエレクトロニクス化の進展や新興国における低価格車の登場をきっかけに変革する兆しをみせています。さらに、ネットワークにつながることによって、自動車単体を売るビジネスからインフラやサービスを含めたビジネスモデルへ転換も求められています。自動車産業の構造がどう変わり、日本企業はどう対応すべきかを考えます。

14:15-14:45 進化するデジタルものづくり動向紹介
～「3次元図面」と「3次元CAD」で設計力と現場力の融合へ

ソリッドワークス・ジャパン(株)マーケティング部 担当部長 金谷道雄氏

概要：いまや、3次元CADは、単なるモデリングツールではなく、設計要件、さらには生産・製造要件、そして環境要件をも考慮・検証できるツールへと進化しています。また、業界が推進する3D単独図の推進は新たなものづくりのデジタルによるパラダイムシフトをもたらします。本講演では、設計現場から、生産・製造を始めとするエンジニアリング現場までを考慮したデジタルものづくりの進化の概論を説明し、以降に続く各論のつながりをわかりやすく解説します。

14:45-15:30 「3次元設計を支える仮想空間での設計検証の効果と推進」

(株)GAC 新空調事業部 技術管理 南山雄一氏

概要：3次元設計を導入すると直面する“設計様式の変化への設計者の抵抗”と“フロントローディングによる設計業務負荷上昇”が発生するのが一般的です。この壁を超えない限り、3次元設計は頓挫してしまいます。そこで、2つ壁を乗り越えるために「3次元設計のキモ＝設計検証であり、実際の普及推進は6勝4敗でいい」と定義した3次元設計推進の考え方とそれを支える「操作教育＝3次元設計教育」の概要について、事例と効果を紹介します。

15:30-15:45 休憩

15:45-16:30 「3次元図面」を応用した「3次元公差」検証の重要性

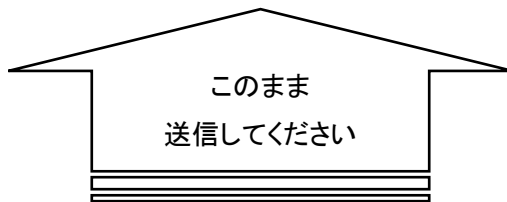
(株)プラーナー 代表取締役 栗山弘氏

概要：設計者が設定する公差の値は、製品コストや性能・品質といったことに大きく影響します。このため、公差設計に関する技術力を高めることが、製造業の競争力向上に繋がると言っても過言ではありません。本セミナーでは、「公差設計の現状と今後の展開」に加えて、日経ものづくりでも連載された「公差設計のPDCA」についても解説します。

16:30-17:15 多品種少量生産における3次元データ活用
～3次元治具設計からデバッグレス加工

(株)イマオコーポレーション
機工本部/プロダクトマネージャー(標準治具担当) 小原敦司氏

概要：多品種少量生産の加工現場では、治具・工具・加工プログラムの準備や機内でのデバッグ作業に多くの工数がかかり、生産性を阻害する要因となっています。弊社では3次元データを有機的に利用し、治具・工具・加工プログラムの準備期間短縮とデバッグレス加工を実施しております。弊社生産現場の現状を例に、他社様での事例を交えながら、3次元データの利用による生産性向上についてご紹介いたします。



【 申 込 書 】

(デジタルものづくりセミナー[2009. 10. 30開催])

(財)飯塚研究開発機構 研究開発部(担当:相緒、村田) 行
(FAX 0948-21-2150、E-mail: murata@cird.or.jp)

- * 午前のみ、午後のみ、連続受講、それぞれ可能です。
- * 午前の部、午後の部のそれぞれについてお申込みください。

申込年月日	2009年 月 日
所 属	ふりがな
	会 社 名
	郵便番号・住所
	TEL
	E-MAIL
受講申込者	所属・役職
	氏名
受講申込者	所属・役職
	氏名
受講申込者	所属・役職
	氏名
受講希望	午前の部
	午後の部
	* ご希望の時間帯を○で囲んで下さい。午前、午後続けての受講も可能です。